

花

いま  
新潟大学の魅力と現在を発信  
新潟大学季刊広報誌 [RIKKA]  
2023.WINTER  
 NIIGATA UNIVERSITY MAGAZINE No. 43

特集

## 授業紹介 -教育の現場-

Enjoy! 学生ライフ

注目される研究報告

教員によるコラム“知見と生活のあいだ”

新大メモリアル写真館 あのとき、あの場所

基金関係のお知らせ

Campus Information

# メコン諸国と連携した 地域協働・ドミニトリリー型融合教育

—地域創生課題解決能力と融合的視点をもつ理工系グローバルリーダー人材を育成—





Cover Photo

2022年12月、新潟市は久しぶりの大雪に見舞われた。新潟大学のキャンパスも白一色に。大雪の影響により、授業が2日間休講となった。

## 特集

# メコン諸国と連携した 地域協働・ドミニトリー型融合教育

—地域創生課題解決能力と融合的視点をもつ理工系グローバル・リーダー人材を育成—

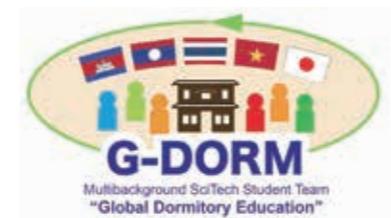
新潟大学工学部が中心となり実施している「メコン諸国と連携した地域協働・ドミニトリー型融合教育による理工系人材育成」の取組。この特色ある教育プログラムでは、新潟大学学生とASEAN・メコン地域の大学の学生が、学年縦断・分野横断・多国籍のチームを結成。新潟の企業とメコン地域の現地法人と連携して、国際グループワークインターンシップを行う。プログラムが目指す人材育成と地域企業にもたらす利点について特集する。

## 地域創生に貢献する 理工系グローバル 人材を育成

新潟大学は、本州日本海側ライン唯一の政令指定都市に位置する大規模総合大学であり、日本海対岸のアジアを基点に世界に開かれた「知のゲートウェイ」として、世界と協働した知の創造を推進し、国際感覚に満ちたグローバルキャンパスの中で、高度で多様な頭脳循環の場となることを国際協働ビジョンとして掲げている。このビジョンを背景とし、国際交流ネットワークの強化を通じた国内外地域の課題解決や豊かな未来の創生のため、新潟を起点としたグローバル人材育成と大学教育のグローバル展開力の強化に取り組んでいる。



坪井 望  
新潟大学副学長(国際交流担当)・工学部教授



2023.WINTER No.43

## CONTENTS

### 03 特集

## メコン諸国と連携した 地域協働・ドミニトリー型融合教育

—地域創生課題解決能力と融合的視点をもつ理工系グローバル・リーダー人材を育成—

### 08 授業紹介－教育の現場－

### 09 Enjoy! 学生ライフ

### 10 注目される研究報告

### 12 教員によるコラム“知見と生活のあいだ”

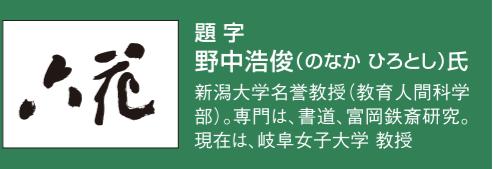
### 13 新大メモリアル写真館 あのとき、あの場所

### 14 基金関係のお知らせ

### 16 Campus Information

#### 『六花』とは…

本誌のタイトルでもある『六花』とは、本学の校章のモチーフである“雪の結晶”を表す言葉。本学の校章は、シンボルマークであった学生章をモチーフに本学名誉教授 小磯 稔氏がデザインしたものです。



題字  
野中浩俊(のなか ひろとし)氏  
新潟大学名誉教授(教育人間科学部)。専門は、書道、富岡鉄斎研究。現在は、岐阜女子大学 教授

新潟大学SNS公式アカウント

- @niigata.univ
- @Niigata\_Univ\_O
- @niigata\_university

## G-DORMに参加して得たもの

## 最大限の工夫をし、目標を達成する

大学院自然科学研究科 環境科学専攻  
社会基盤・建築学コース(社会基盤系)  
博士前期課程1年 宮下雄成さん



2018年に参加した短期受入プログラムで得た「難易度が高いことに果敢に挑戦し、自分ができる最大限の工夫をもって結果を出す」という学びは、私の大学生活に一番の影響を与えています。プログラム初日は英語での議論に全く参加できませんでしたが、「次の議論までに自分の意見と理由を考え、スライドにまとめる」という工夫によって、結果的に自分の意見や考えた案を軸に話し合いが進むようになりました。その後は難易度が高いことでも「やりたい!」と思ったことに果敢に挑戦するようになりました。シドニーで開催された国際学会での研究の口頭発表やピアノコンクール入賞等の誇れる出来事につなげることができました。

## 課題を地域協働の視点で理解する

G-DORMでは、新潟大学とメコン地域4大学の学生で、学年縦断・分野横断・多国籍チームを結成し、GWに取り組む。新潟地域の企業とメコン地域の日系企業（主に新潟地域関連企業）と協働した国

成長・高度化・国際化プロセスに対する知見を深めることも可能になる。多様な状況に貢献する能力養成が意図されている点も注目すべきポイントだ。



ディスカッションする新潟大学とメコン地域大学の学生(短期受入プログラム)



ベトナム短期派遣プログラムでの現地企業の工場見学

約40の賛同企業があつた。G-DORMプログラムマネージャーの上田和孝工学部准教授に聞いた。「国際GWインターーンシップは、現地技術研修型の『国際テクノロジーGWインターーンシップ』と、現地市場調査型の『国際マーケットG-Wインターーンシップ』の2種を準備しており、いずれも国内・海外ともに実施しています。例えば、新潟地域が受け入れ側となり、燕市内の金属加工企業の実態と技術について研修する国際テクノロジーGWインターーンシップを実施したり、メコン地域に学生を派遣し、三条市内の企業が目指す市場・社会の特性・動向を調査し、提案する国際マーケット

G-DORMプログラムマネージャーの上田和孝工学部准教授に聞いた。

「国際GWインターーンシップは、現地技術研修型の『国際テクノロジーGWインターーンシップ』と、現地市場調査型の『国際マーケットG-Wインターーンシップ』の2種を準備しており、いずれも国内・海外ともに実施しています。例

えば、新潟地域が受け入れ側とななり、燕市内の金属加工企業の実態と技術について研修する国際

テクノロジーGWインターーンシップを実施したり、メコン地域に学生を派遣し、三条市内の企業が目

を実施したり、メコン地域に学生を派遣し、三条市内の企業が目

速させたい新潟の地域企業にとって、メコン地域は生産拠点やマーケットとして重要であり、現地の発展に有用な知見を提供できるものの、グローバル人材の不足がある。一方、事業の国際展開を加えた国内外でのグローバル・ドミニー型教育に発展させている。「G-DORMでは、地域企業と協働して海外大学生を加えた国内外でのグローバル・ドミニー型教育に発展させている。また、メコン地域のトップクラスの4大学では多分野にわたって本学に対する留学ニーズとドミニー型教育に対する理解と興味があったという。

「G-DORMは、メコン地域・新潟地域企業との協働、メコン地域との連携を組み合わせた内容となっています。また、地域に根ざしたグローバル・リーダー、理工系の課題解決型人材の育成」と、馬場暁工学部副学部長(国際研究担当)・教授が話す。さらに、メコン諸国においては、社会要請にも対応しています」と、馬場暁工学部副学部長(国際研究担当)・教授が話す。

系の課題解決型人材の育成という社会要請にも対応しています」と、馬場暁工学部副学部長(国際研究担当)・教授が話す。

学生は、意欲的で優秀だ。新潟大

採用される  
企業から評価  
学生の提案

GWインターーンシップを実施したりしていません。GWのテーマは、交通・物流などの社会インフラ整備、裾野産業の拡充、材料・部品・製品等の高付加価値化、製造現場の生産管理・品質管理やトータル化など多岐にわたり、これらの課題解決提案に新潟地域企業(メコン地域の現地法人を含む)の協力を得て取り組みます。国によって異なる課題や二つを地域協働の視点から理解するとともに、異なる社会環境を実験することで、多様な文化背景を経験することで、解決できる能力の涵養を図ります。学生は、意欲的で優秀だ。新潟大

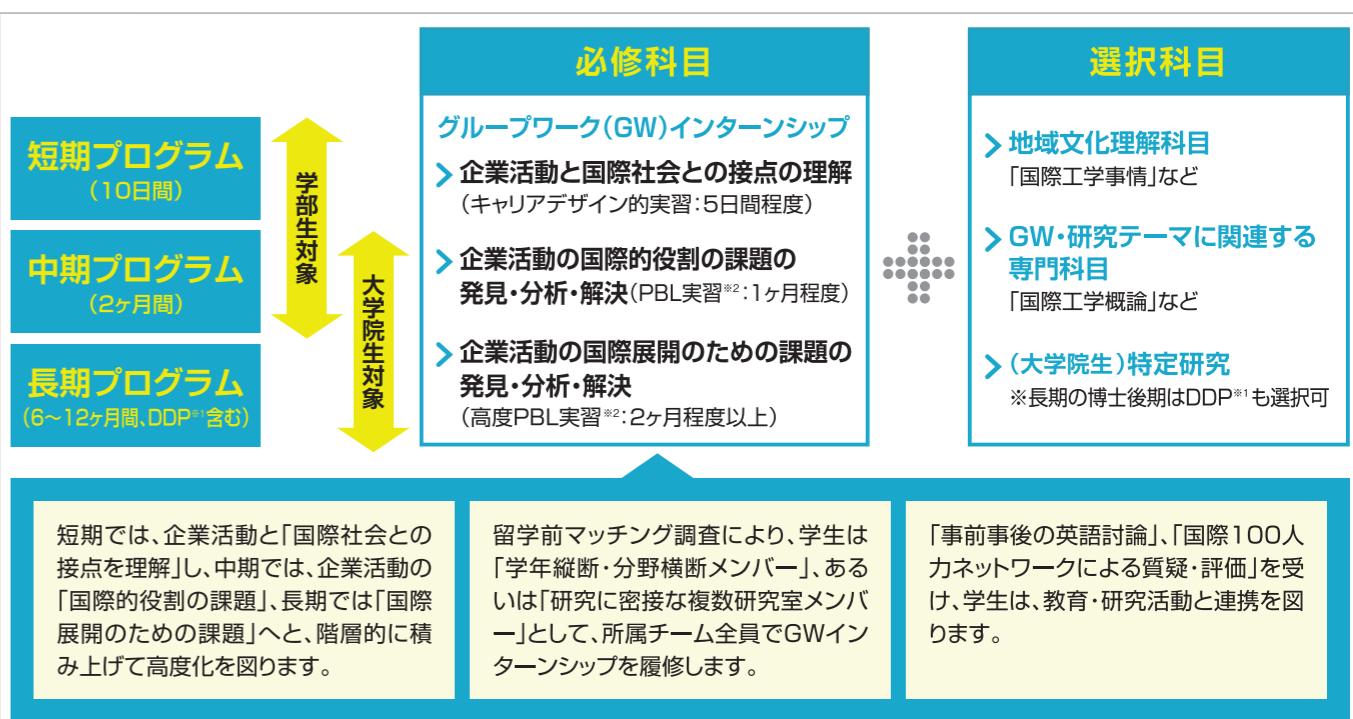
## G-DORMに参加して得たもの

## 「やってみればできる」という度胸につながった

農学部 応用生命科学  
プログラム3年 竹下嘉音さん



1次にG-DORMオンラインプログラムに参加し、あらゆることへ挑戦する度胸が身につきました。留学生や企業の方との議論を重ね、一つの成果を生み出す過程で、英語でのコミュニケーション、チームで進める上での責任感、企業の方とやりとりする上での基本的な気遣いやマナー、論理的な考え方を学びました。たくさん失敗し、考え、実践することを繰り返したことで自信がつき、「やってみればできる」という度胸につながったと考えています。これらの経験が日常的な留学生との交流や、グローバル企業のインターンシップに挑戦することにつながりました。今春には、G-DORM中期派遣プログラムでベトナムへの派遣が決まりました。着実に実践的に、国際人材としてのステップアップにつながっていることを実感しています。



\*1 DDP: ダブル・ディグリー・プログラム \*2 PBL実習: Project Based Learning、課題解決型学習

## 地域に根差したグローバル・リーダーや社会要請にも対応するプログラム

先輩や後輩が集う「学生寮」のように、学科や学年を超えた少人数のチームを結成し、主体的に研究活動に勤しむ場を意味する。

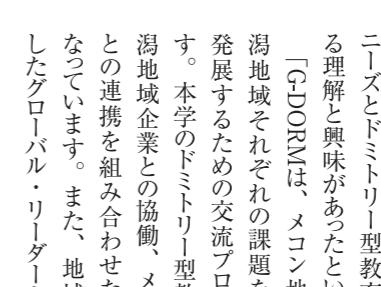
実践的な研究遂行能力、協調性やリーダーシップ能力の涵養、さらには工学系技術者にとって必要な社会科的視座を含めて工学を俯瞰する力を育成すること、それがドミニー型教育の目標です。G-DORMでは、地域企業と協働して海外大学生を加えた国内外でのグローバル・ドミニー型教育に発展させている。



(左)馬場 暁 工学部副学部長  
(国際・研究担当)・工学部教授  
(右)上田和孝 工学部准教授  
(G-DORMプログラムマネージャー)



タイの企業でインターーンシップに参加した新潟大学学生と現地企業スタッフ



燕エリア企業と協働した短期受入プログラムのグループ活動報告会

文化背景が異なる学生が協働する  
プログラムを通して  
企業が新しい視点を得る可能性も

て、学生チームからの提案が企業に採用された事例も報告されてい

「メコン地域企業の生産管理現場で学んだグループでは、工場の生産性が数値化されていない点を指摘し、本学の学生が数値化のための入力シートを作成して企業に提出しました。その導入により生産効率が上がったという成果も出たそうです。また、燕市の企業で学んだメコン地域の学生は、電話やファックスを使ったアナログな連絡体制を見て、クラウドシステムで連絡をスマートにする方法をプレゼンしました。燕市では現在、この提案をベースにした共同クラウドシステムの運用が実現しています。G-DORMMを通じて、学生の発想に触れた企業経営者の中には、新たな価値創出につながるアイデアや情報の取得につながると評価してくださる方が多くいらっしゃいます。若い人材や文化背景の異なる人材との交流を、自社スタッフの教育者と協働する力の醸成は企業人

にとても重要なのだと思います。



燕エリア企業での短期受入プログラム。学生は調理部門のマニュアル開発を提案

プログラムは学外からの評価も高い。特に公益社団法人つばめ会と連携して実施した短期受入の国際GWインターインシップは、学生の社会的・職業的自立に貢献したインターネットインシッププログラムを表彰する日本最大級のアワードである、第3回「学生が選ぶインターネットインシップアワード」で優秀賞を受賞している。

ポストコロナでは  
ハイブリッド型で  
効果を高める

なのかという点にもスポットが当たったように思います。ポストコロナの時代の教育は、対面とオンラインそれぞれの限界を補う形で発展し、ハイブリッド型として組み合わせて多様化させることにより効果を大きくするようになります。今後、本学として重点的に取り組む必要のある課題です」



立プロンペン大学と新潟大学とのオンラインGW

修士学生として日本で学ぶという夢が実現

大学院自然科学研究科  
材料生産システム専攻素材生産科学コース  
博士前期課程1年

## PHON Vuochkeangさん (カンボジア・王立プノンペン大学出身)

私は2018年のG-DORM短期受入プログラムに参加し、たくさんの知識と経験を得ました。多様な国の学生との協働を通してチームワークやリーダーシップ、英語コミュニケーション力が向上しました。また、現場実習を通じた企業の技術と課題解決に関する学びも重要な糧となりました。G-DORMの経験は、その後の学業やキャリアに多大な影響を与えています。何事にも自信を持って挑戦する姿勢が身につき、帰国後は積極的にインターンシップに参加、卒業後には国際NGOで働く機会も得ました。現在は、新潟大学修士学生として日本で学ぶという夢が実現しています。G-DORMは、留学生が日本で学ぶ夢をつかみ、能力向上させるための素晴らしい機会を常に提供しているプログラムです。

国際教育は多様な学びを  
体系的に提示するステージに  
それは大学のミッションに合致

**グローバル対応力**  
**に係る思考機会を**  
**多様な科目で拡充**

新潟大学では、教育に係る取組として、新潟の豊かなフィールドの特長を活かし、地域社会の活性化を国際的視点で担うグローバル対応力を養成するため、国際教育プログラムの多様化とともに、系化を推進している。これに呼応

「本学では学部に入学すると一年次に必修で語学教育があります。しかし、あくまで語学は国際教育の一部です。語学スキルを使って文化背景が異なる人たちを理解しながら己を見つめ直し、グローバルな新しい価値観の創造に能動的に取り組む人材育成が求められています。本学では、多文化共生やSDGs等の国際的トピックを題材とする授業、学内での授業、国境を越えたオンラインによる授業や留学、渡航型の短期

成プログラムとして期待される。いろいろな海外の大学や国内外の企業との連携は国際共同研究にもつながる。国際的でありながら地域を意識した教育・研究の充実と成果の還元が、グローバル・地域中核人材の輩出と、地域社会の国際的な交流拠点の機能強化を活性化する。質の高い国際的な頭脳循環を通して、多様性・公正性・包摶性を伴った多文化共生社会の実現のみならず、グローバルな社会課題の解決や持続可能な産業の創出に貢献することは新潟大学の使命に合致する。

するG-DORMの国際GWインター  
ンシッププログラムには、ポストコロ  
ナの時代における国際教育と社会  
会貢献活動における大学のあるべき  
姿を内包しているように見えま  
る。再び、坪井副学長に聞いた。  
「G-DORMのような国際教育プ  
ログラムを実施するためには、国  
内外の様々な関係者と調整をし  
なければなりません。それを担  
たのは工学部の教員です。大学は  
専門分野だけを研究し教えると  
いうスタンスではなく、専門的な  
素養をベースにしつつ、様々なス  
テークホルダーを巻き込み、学生が  
企業と大学にとって得るものが多くなる  
多くなるように教育をコーディネ  
ートしていくスキルを身につけ  
なければなりません」

また、大学における国際教育  
とは語学を学ばせ、留学を促す  
というステージに留まるものではな  
い。

さらに中期・長期の留学などの様々な国際的な学びの場を科目として拡充して提供しています。また、海外からの優秀な学生の獲得にも取り組んでいます。現代の国際教育は、多様なグローバル力の向上機会を科目として体系的に学生に提示し、組み合わせて活用してもらうステージになっていきます。それを新潟の地域性を背景として整備していくことがミッションであり、そのフラッグシップのつがG-DORMなのです」

新たに、2022年度文部科学省「大学の世界展開力強化事業（インド太平洋地域等との大学間交流形成支援）」において、「インド太平洋地域の『仮想フィールド』を利用したハイブリッド型型フィールド科学人材育成プログラム」が採択された。G-DORMと同様に、地域と世界を結ぶ人材育

コロナ禍で海外渡航ができないなくなりた2020年度以降は、企業訪問やステークホルダーとの対面が困難になつた。その結果、G-DORMでは国際オンライン協働学習の手法を用いた新たなプログラムが開発された。「不可能になつた対面の代替案」ではなく、積極的にオンラインの利点を取り入れた内容になつてゐる点が特徴だ。馬場副学部長に聞いた。

「G-DORMのプログラムは特性上、様々なステークホルダーとの交渉や調整が必要になります。オンラインを利用することで、彼らと非常に簡単につながれることは、生かすべき利点の一つでした。また、オンラインでのコミュニケーションは、対面とは異なるスキルが必要になると認識を新たにした学生も多かつたと思います。オンラインでの対話は国際ビジネスの現場では既に標準的なものになっています。その必要性を身をもつて理解したはずです。また、オンライン以外の時間を有効に使い、いかに準備するべき

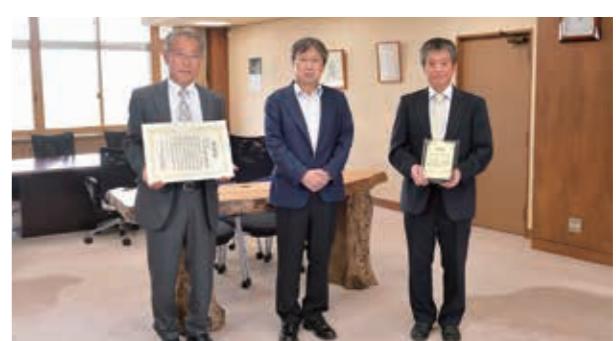
[G-DORM協力企業から]

燕市の企業に新しく複眼的な視点を  
提供してくれる

つばめ産学協創スクエア  
公益社団法人つばめいと事務局長(新潟大学工学部助教)  
若林悦子さん



つばめ産学協創スクエアは、新潟県燕市でインターンシップの受入プログラムのコーディネートや学生の宿泊施設の運営管理を行っています。燕市は中小企業が多い土地です。燕市のインターンシップでは、学生にできるだけ企業トップの考えに触れ、一部署でなく企業全体の大きな視点で社会との接点や将来ビジョンを見てもらい、企業や社会にどう貢献できるか考えられる機会になるようにしています。企業側は、将来に向けた人材確保、若手社員の育成、新商品のヒントなどを得ています。企業がどのように見られているかを認識したり、福利厚生を見直すなど、企業の課題解決に貢献する取り組みを行っています。



公益社団法人つばめいと連携して取り組む国際GWインターンシップが第3回「学生が選ぶインターンシップアワード」で優秀賞受賞

すききっかけにもなっているようです。興味関心が多岐に渡る大学生は視野が広く、企業にとって新しく複眼的な視点を提供してくれます。また、外国人採用のハードルを下げることも期待されます。外国人学生や留学生を採用できれば、企業の海外展開力につながるはずです。かつて懸念された言葉の壁は過去のものになりつつあるように感じます。G-DORMを通して燕市の企業が学ぶことは今後ますます増えると考えています。

# Enjoy! 学生ライフ

新潟大学の学生は、勉学はもちろん部活やサークルなどの課外活動でも活躍しています。このページではそんな青春の1ページをお届けします。



↑所属するメンバーは77名と大所帯。週に2~3回のペースで五十嵐キャンパスの大学会館や西地区公民館で活動する

## クレッセンド CRESCENDO

### 楽器、曲、編成は多種多様 自由に音楽を楽しむ

CRESCENDOは、アコースティック音楽に興味を持つメンバーが集まるサークル。アコースティックとは言うものの、手にする楽器に制限なく自由な雰囲気を感じる。「ピアノ、ヴァイオリン、ヴォーカル、ギター、ベース、トランペット、フルート、クラリネット、サックス、鍵盤ハーモニカ、リコーダー、ウクレレ、ドラムなど多種多様です。また、クラシックから民族音楽、ジャズ、ボサノヴァ、ポップス、ゲーム音楽、アニメソングなど、ありとあらゆるジャンルの曲を演奏します。演奏形態も独奏から合奏まで、メンバーが好きな編成で好きな曲を演奏します」と、サークル長の白壁健太さん。4月は新歓、7月は定期、12月はクリスマス、3月は卒業コンサートと、発表に向けて各自が練習を重ねている。「コロナ禍では練習や発表の場が限られることで苦労しました。人数制限などの工夫をし、全員で協力しながら活動しています」

➡コンサートで発表する曲ごとにバンドが組まれる。サークル内で複数のバンドを掛け持つするメンバーもいる



コンサートまでの練習や準備でマネジメント力も養われます

サークル長  
白壁健太さん  
(人文学部2年)



### 新潟大学公式アプリ配信中

在学生、受験生、卒業生向けの情報をコンパクトにまとめ、隨時お届けします！ぜひダウンロードください。

App Store Google Play



## 高垣里衣 准教授

Rie Takagaki

**Profile** 博士(文学)。専門は西洋経済史とグローバルヒストリー。近世スペインの商業史、18世紀バスク人の貿易活動・商業活動を研究する。



経済史やグローバル・ヒストリーに関する文献を読み、発表・質疑応答・討議を行う「学際日本学演習」。経済史だけでなく、文化や知識の交流・環境問題と経済社会の関連・外国史・世界史における日本などのトピックを交え、多角的視点を養うための議論を行う。

この授業は学際日本学

人文社会科学分野の幅広い学識を取得  
対話から他者を理解する力を身に付ける

プログラム3年次対象で、他者との対話を重視しています。毎回、留学生を交えた学際日本学演習は、少人数制で、今期の履修学生は11名。毎回、2名の学生が要約。文献を批判的に読んだ上で意見を発表し、その

## STUDENTS VOICE



左:斎藤祐衣香さん  
右:閔 優斗さん  
(経済科学部3年)

「経済学だけでなく、人文社会科学の幅広い教養と組み合わせて考え議論できる有意義な時間です」(斎藤)  
「国際的な視点を学びたいと履修しました。先生と学生の距離が近く、演習中の疑問点を気軽に質問できます。学びやすく、発言しやすい雰囲気が魅力だと思います」(閔)

後に全員で議論する。  
「学生は意見の違いを不ガティブに捉えがちですが、着眼点が異なることや批評は決して悪いことではありません。もちろん、どんな意見でも受け入れることができます」  
自分の考え方との差異やその理由を踏まえ、他者を理解する力を養ってほしいと思います」  
また、4年次以降に本格的に取り組む卒業論文

「議論を深めるためには、まず話すことから。学生には、どんな小さなことで也有能性を持った事柄について発言してほしいので、常に話題を出し合います」と担当の高垣里衣准教授。演習は少人数制で、今期の履修学生は11名。毎回、2名の学生が文献内の指定されたパートを要約。文献を批判的に読んだ上で意見を発表し、その後の議論を重視しています。他者との対話から異なる視点を見出し、協調して課題を解決していく能力は卒業後の社会でも求められます。自らの議論や関心について、説得力のある論理構成を身に付けています。



意欲ある学生が伸び伸びと勉学に勤しむ

# 授業紹介 —教育の現場—

専門的な知識や技術の修得と、均整の取れた知識の獲得は教育の重要な役割。約5,000科目の中から特色ある授業を紹介。

## 経済科学部

後に全員で議論する。  
「学生は意見の違いを不ガティブに捉えがちですが、着眼点が異なることや批評は決して悪いことではありません。もちろん、どんな意見でも受け入れることができます」  
自分の考え方との差異やその理由を踏まえ、他者を理解する力を養ってほしいと思います」  
また、4年次以降に本格的に取り組む卒業論文

「議論を深めるためには、まず話すことから。学生には、どんな小さなことで也有能性を持った事柄について発言してほしいので、常に話題を出し合います」と担当の高垣里衣准教授。演習は少人数制で、今期の履修学生は11名。毎回、2名の学生が文献内の指定されたパートを要約。文献を批判的に読んだ上で意見を発表し、その後の議論を重視しています。他者との対話から異なる視点を見出し、協調して課題を解決していく能力は卒業後の社会でも求められます。自らの議論や関心について、説得力のある論理構成を身に付けています。



病気と闘う子どもと、  
その家族が一緒にいられますように。

—小児医療宿泊施設— ドナルド・マクドナルド・ハウス にいがた

ハウスの運営は100%皆様からのご寄附で支えられています。温かいご支援をよろしくお願ひいたします。



新潟大学 ドナルド・マクドナルド・ハウス にいがた

検索



2024年、  
新潟大学は  
創立75周年を  
迎えます



『悠久の丘一新潟  
大学教育学部長  
岡分校創立三十  
周年並びに開校  
記念誌』より

新潟県長岡市。新潟大学(教育学部)長岡分校は、新潟第一師範学校女子部が中核となり発足。大学開学後、同市学校町にあった新潟大学工学部の隣接地・栖吉川のほとりに木造2階建て校舎が建設され、昭和28年に同市内から移転した。五十嵐キャンパス統合まで30年余り存在した長岡分校は、昭和56年に閉校となり歴史の幕を閉じた。建物は現存しておらず、その跡には新潟大学附属幼稚園、附属長岡小学校、附属長岡中学校が建つ。



## 新大メモリアル写真館 あのとき、あの場所



いがらしゆりこ  
五十嵐由利子  
新潟大学名誉教授

専門は住居学。快適な生活とは何かを長年に渡り研究。昭和44年、新潟大学教育学部(長岡分校)卒業。昭和46年、奈良女子大学大学院を修了し、新潟大学教育学部長岡分校助手として採用。平成5年、教育学部教授。同12~16年に教育人間科学部附属幼稚園園長、同16~20年に副学長併任。同24年の定年退職後は新潟青陵短期大学部副学長など歴任。現在も学会役員など、パワフルに活動を継続。

新潟大学(教育学部)には昭和24(1949)年の開学当時、師範学校にリーグをもつ分校が新発田後に新潟分校に改称、新潟市旭町へ移転、長岡、高田(現・上越市)にあった。このうち長岡分校では、教育学部の小学校教員養成課程と中学校教員養成課程(家庭科を除く)の1~2年次、中学校教員養成課程の家庭科と幼稚園教員養成課程は卒業する4年次まで学生が学んでいた。「憧れを抱いて見た分校の校舎が古い木造で少し戸惑ったのを覚えていました。母校の三条高校は鉄筋コンクリートでしたから」と長岡分校の家庭科で学んだ五十嵐由利子名誉教授が話す。家庭科は新潟県女子師範学校からの伝統を受け継ぎ、分校発足当初には教育学部家政学科という名称で設置された特色ある看板学科。栄養学など食物関係の設備や授業が特に充実していた。

「広い調理実習室には各タイプの調理台や冷蔵庫、オーブン、戸棚にはフルコースの食器がありました。建築当初は実習室の見学に来られる学外の方も多かつたと聞きました。長岡分校は学生が少人数で、教職員との距離が近かつたということもあり、とても充実していました。

新潟大学(教育学部)には昭和24

も家族的なあたたかい雰囲気でした」

五十嵐名誉教授が特に印象的だったのは大島愛子先生。指導は厳しかったが親

身になって接してくれた。大学院進学を決意したのは大島先生が背中を押してくれたからだった。

「調査をお手伝いした先生の論文が学会

賞を受賞したのは良い思い出。また、年に一回、クリスマスには洋風レストランでの食事

に誘ってくださいました。卒論指導に力を

入れ、学生にとことん寄り添うといつ私の

教育スタイルは先生から学んだのです」

卒業後は住居学を研究するため奈良女子

大学大学院に進学。修了後、助手として分

校に戻り、五十嵐キャンパス統合時には各

分校の花木を新校舎に移植する記念事業

の委員も務めた。すでに分校の校舎はない

幼稚園のシンボルになっています。どちらも綺麗な花を毎年咲かせ続けてくれています」

に残っている。

「統合のタイミングで長岡分校から五十嵐

キャンパス教育学部棟正面にツツジとサツキ

を持ててきました。また、老木のため移植がで

きなかつた紅梅は、分校の跡地に建つ附属幼

が、その記憶は四季の景色とともに鮮やか

に残っています」

NIIGATA UNIVERSITY

## COLUMN ◆ 新潟大学教員によるコラム “知見と生活のあいだ”

本学教員がそれぞれの専門領域と日常の接点を題材に、日々の生活に通じる理論やアイディアを綴るリレー式コラム。第25回は災害・復興科学研究所です。

### 第25回●災害・復興科学研究所 「土砂災害警戒情報について」

土

砂災害警戒情報をご存じでし

ょうか? 台風や前線の活動

が活発化して大雨になると、テレビ

やネットのニュースでよく見かける

言葉です。本稿では、土砂災害警戒

情報について簡単に解説いたします。

気象庁は、土砂災害警戒情報の基

準を土壌雨量指数と60分間積算雨量

(60分前から現在までの降った雨量。

60分雨量ともいう)の2つの指標で

設定しています。土壌雨量指数は、

降雨が浸透し、土壌に貯まっている

水分量を数値解析して得た指標です。

晴天が続いた後の大雨と、数日間の

降雨があった後の大雨では土砂災害

の危険度が異なります。60分雨量が

下降するにつれて、土砂災害警戒

情報を基準値は、過去に発生

した土砂災害を調査して決定されま

す。図のように、災害が発生した土

形、地質、植生等の条件が異なるた

めです。この基準値は、過去に発生

した土砂災害を調査して決定されま

す。図のように、災害が発生した土

形、地質、植生等の条件が異なるた

## 新潟大学センター俱楽部

■目的 継続して新潟大学を支援するため、俱楽部年会費の全額を「新潟大学基金」に寄附します。  
また、会員様へ本学の情報発信を行い、新潟大学と会員及び地域社会との連携と発展を目指します。

■寄附者名簿 (R4.9～R4.11入会・更新分)※(50音順 敬称略)

【新規】(団体)あおやまメディカル株式会社 弁理士法人牛木国際特許事務所 エアブラック株式会社 神山物産株式会社  
銀座Mitaクリニック 株式会社サンケイ情報ファシリティ 株式会社中野科学 新潟大学地域医療教育センター・魚沼基幹病院  
株式会社廣瀬 北越メタル株式会社 株式会社村尾技建

【更新】(個人)荒田 学 濵谷 裕之 高橋 委 二宮 登 庭野 純志 根津 英美 吉田 順子

(団体)エールホームクリニック JA共済連新潟 JA全農にいがた JA新潟厚生連  
JA新潟中央会 JAバンク新潟県信連 新潟大学生活協同組合 セコム上信越株式会社  
株式会社大光銀行 株式会社ツインバード ナミックス株式会社 新潟交通株式会社  
ダイヤモンド電子株式会社 株式会社マルタケ 有限会社ヤスタヨーグルト 株式会社菱電社

最新の会員名簿は、右のURLからご覧いただけます。 <https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/supporters/>

### トピックス

#### 「令和4年度新潟大学センター俱楽部報告会・情報交換会」を開催しました

本学は、「令和4年度新潟大学センター俱楽部報告会・情報交換会」を、11月29日に市内ホテルで開催し、企業会員、学生(留学生を含む)、大学教職員の計114名が参加しました。

毎年、センター俱楽部会員の皆様に、支援を受けた学生からの謝意や特色ある活動を展開する学生の活動報告などをお伝えする場として「新潟大学センター俱楽部報告会・情報交換会」を開催しておりますが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2年間オンラインにて開催しました。今年度は感染状況を注視しながら、徹底した感染防止対策のもとで、3年ぶりに対面で開催する運びとなりました。

報告会では、牛木辰男学長から新潟大学の取り組みについて、学生支援を中心に説明がありました。その後、同俱楽部の支援を基に実施している本学独自の奨学金制度による奨学金を受給している学生ら4名から支援に対する感謝とサークル活動や研究活動などの大学生活や自身の体験、将来の夢などについて発表がありました。



4名の学生による発表



情報交換の様子

## 新潟大学リサイクル募金

■目的 皆様から読み終えた本・DVD等をご提供いただくと、その査定額が新潟大学に寄附されます。  
寄附金は学生の修学支援をはじめとした事業に役立てられます。

■寄附者 (R4.9～R4.11寄附入金分)

〈個人〉11名 〈団体〉5団体

## 遺贈によるご寄附

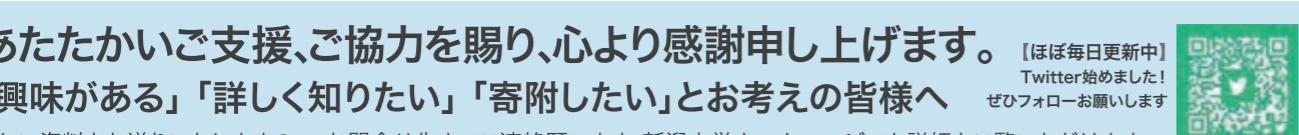
### 遺贈とは

遺言により、ご自分の築き上げられた財産を特定の方々に寄附することを遺贈といいます。  
この方法で所有しておられる資産の一部を、新潟大学に遺贈したいとお考えの方のため、高度な専門性と豊富な経験を有する銀行と提携し、その手続きの便宜を図るものであります。  
遺贈による寄附のご利用を希望される場合やご不明な点がある場合は、下記お問合せ先へお問い合わせください。

あたたかいご支援、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。  
「興味がある」「詳しく知りたい」「寄附したい」とお考えの皆様へ

詳しい資料をお送りいたしますので、お問合せ先までご連絡願います。新潟大学ホームページでも詳細をご覧いただけます。

お問合せ先 新潟大学センター連携推進室 TEL 025-262-5651・6010・6356 E-mail [kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp](mailto:kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp)  
HP <https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/>



## 一学生の輝く未来を共に創るー 基金関係のお知らせ

地域の中核を担い国際社会で活躍する人材を輩出するため、  
「学生の修学支援」「国際交流」「教育施設整備」の推進を目指しています。

## 新潟大学まなび応援基金

■目的 経済的理由により修学が困難な学生に対して、修学支援事業を行います。

令和2年度からは、「輝け未来!!新潟大学入学応援奨学金」「新潟大学大学院博士課程奨学金」「新潟大学修学応援特別奨学金」及び「新潟大学業成績優秀者奨学金」の支援に加え、「新型コロナ対策緊急学生サポートパッケージ」により、修学・学生生活支援及び経済支援を行っております。

■寄附者名簿 (R4.9～R4.11寄附入金分)※(50音順 敬称略)

〈個人〉石田 武裕 上松 正次 栗原 幸二 児玉 伸子 佐藤 純一 鈴木 康寛 松崎 茂理 吉塚 康一 匿名希望5名

## ～優秀な大学院生の研究を応援～ 新潟大学研究等支援基金

■目的 学生等又は不安定な雇用状態にある研究者への研究等を支援する事業を行います。

令和4年1月に創設し、「新潟大学フェローシップ支援」「未来のライフ・イノベーションを創出するフロントランナー育成プロジェクト」により、大学院生の研究費支援を行っております。

■寄附者名簿 (R4.9～R4.11寄附入金分)※(50音順 敬称略)

〈個人〉松崎 茂理 匿名希望1名

## 新潟大学基金

■目的 新潟大学の基盤整備、企業や地域社会との連携、教育・研究活動支援、国際交流活動支援、学生のための厚生施設整備などを推進する事業を行います。

■寄附者名簿 (R4.9～R4.11寄附入金分)※(50音順 敬称略)

〈個人〉荒井 公雄 五十嵐 友子 石塚 卓 井手 協太郎 出井 道夫 伊藤 道一 伊藤 本男 今井 ありん 今井 かおり  
石見 鉄夫 大嶋 泉 大嶋 美香 太田 隆 大桃 祐介 小川 宏 貝瀬 俊郎 勝井 文美 金山 繼志  
金子 峰 金田 亮平 余川 靖弥 栗加 哲郎 小林 秀一 西條 幸平 斎藤 博 斎藤 宏之 笹崎 義博  
佐藤 純一 佐藤 正道 芝田 正 鈴木 保高 清野 ちあき 曾我 総一 高杉 浩文 高橋 淑子 滝澤 哲也  
滝澤 政司 滝沢 由美子 田島 富二夫 樽木 秀範 多和田 孝雄 土屋 秋一 堂前 洋一郎 鳥羽 雅英 外山 久泰  
頓所 一義 順所 ひろ子 長田 敏彦 中平 啓子 野口 公聖 長谷川 庄栄 藤木 靖夫 古沢 明 前沢 政次  
松崎 茂理 松野 徹朗 松山 勇仁 丸山 秀幸 三宅 徳昌 宮下 正弘 森 登志男 山井 多香子 山田 由紀子  
横野 知江 横山 純美 吉田 順子 渡辺 京子 渡邊 さとみ 匿名希望46名

〈団体〉越後ファーム株式会社 亀田製菓株式会社 倉敷機械株式会社  
コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社ペンティング新潟支店 サントリービバレッジソリューション株式会社  
新潟大学事務職員有志一同 株式会社バイオニア 悠久会神奈川支部

株式会社コーンシン 新潟大学医歯学総合病院小児科親の会 SMILE(すみれ)の会  
株式会社和光ベンディング 匿名希望10団体

### トピックス

#### 創立75周年記念募金発起人会を開催しました

本学は、2024年に創立75周年を迎えます。創立75周年を契機に、将来ビジョンの実現とともに、今後も学生支援の充実と地域社会に開かれた大学を目指すため、五十嵐・旭町キャンパスの健康スポーツゾーンの整備を進めることとし、その実現に向けて創立75周年記念募金を創設する運びとなりました。

このことに伴い、2022年11月29日(火)駅南キャンパスときめいて、創立75周年記念募金発起人会を開催しました。開会挨拶で牛木辰男学長は、発起人への就任を感謝するとともに、「未来のライフ・イノベーションのフロントランナーとなる」ためのミッション実現と、有為な人材育成及び社会と地域の共創の拠点となる健康スポーツゾーンの改修整備を行いたい」と力強く抱負を述べ、協力を呼びかけました。参加した発起人からは取組みへの賛同と協力だけでなく、優秀な人材の輩出、地域貢献といった本学への期待の声を数多く寄せられました。



新潟大学創立75周年記念募金にご理解をいただき、温かいご支援をよろしくお願ひいたします。

株式会社ウイザップ様に「ドナルド・マクドナルド・ハウスにいがた」への寄附付き自動販売機が設置されました

本学は、サントリービバレッジソリューション株式会社と共に、自動販売機の売り上げの一部が、新潟大学基金「ドナルド・マクドナルド・ハウスにいがた支援募金」へ寄附される支援型自動販売機の設置を新潟県内に展開することを決定し、その第一号機を4月1日に本学工学部学生玄関内に設置しました。

この度、株式会社ウイザップ様のご協力により、第二号機を社内に設置していただける運びとなり、10月3日に無事に設置が完了しました。今後、この支援型自動販売機が広く県内に設置されることにより、病気と闘っている子どもたちとそのご家族が利用できる滞在施設をより多くの皆様に知っていただききっかけになり、また、ご家族が自宅と入院先での二重生活を強いられ、経済的な負担や家族が離れて暮らす精神的苦痛への支援の輪が広がることを期待しています。

にいがたハウスは6月30日に無事竣工し、国内12か所目、日本海側では初のハウスとして、10月1日にオープンいたしました。

ハウスの運営は皆様からのご寄附で成り立っております。本学でも今後の運営費用に関する募金を継続して募っております。引き続き皆様からの温かいご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

また、サントリービバレッジソリューション株式会社様、株式会社ウイザップ様からは、新潟大学センター連携部会員としても本学への支援を賜っております。



株式会社ウイザップ様に設置された自動販売機

# Campus Information

地域に密着しながら様々な活動を続ける新潟大学。皆さんにお伝えしたいニュースはたくさんあります。

## 農業用DX機器 (土壤分析装置、無人仕様トラクタなど)の 見学会を開催しました

本学農学部は、文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」の採択を受け導入した土壤分析装置、無人仕様トラクタなどの農業用DX機器の見学会を2022年11月25日、五泉市石曾根にある附属フィールド科学教育研究センター村松ステーションにおいて開催し、学生、産業界、行政機関、農業DX関係者など約70人が参加しました。当日は、日本海側の11月末にも関わらず、快晴に恵まれました。農学部の長谷川英夫教授の事業説明から始まり、無人トラクタ、日本に1台しかない土壤分析装置、リモコンラップマシン、ドローンの各説明と実走が村松ステーションの圃場で行われました。その後、村松ステーションの講義室にて、本学に期待することや要望など、意見交換が行われました。本学農学部では、見学会に来ていただいたご意見を参考しながら、農業DXに係る人材育成プログラムの深化を図るとともに、産業界や行政機関と連携して、地方企業に必要とされているデータサイエンスの知識・技能やデジタル・スキルを有する高度農業人材を育成することとしています。



## 本学学生及び教員の救急救命活動に対して感謝状が贈呈されました



左からいわて盛岡シティマラソン実行委員会事務局長の高橋一仁氏、山崎さん、  
亀岡特任助教、村山准教授

「いわて盛岡シティマラソン 2022」において救急救命活動に協力したとして、本学学生及び教員に対して同大会実行委員会から感謝状が贈呈され、2022年11月28日に贈呈式が行われました。感謝状を受けたのは、大学院現代社会文化研究科博士前期課程の山崎幸歩さん、人文社会科学系の村山敏夫准教授、大学院教育支援機構PhDリクルート室の亀岡雅紀特任助教の3名です。10月23日に開催された同大会において、フルマラソンに出場された70代男性が意識をなくし一時心肺停止の状態に陥った際、本学3名が心臓マッサージやAED使用などにより適正な救命措置を施した後、救急隊に引き渡しました。男性は病院へ搬送される途中で意識を回復し、後日、無事に退院されたとのことです。山崎さんは「誰もが一次救命をできてほしいと思います。このような救命の場面など、いつ何が起こるかわからない状況の中でも自分は動ける人になりたいです」と力強くコメントしました。

## 新型コロナウイルスへの対応に対し 新潟県から感謝状が贈呈されました

本学では「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策本部」を2020年2月27日に立ち上げ、学内への対策はもとより、新潟市西区の近隣住民へのワクチン接種に際しての接種会場の提供、本学教員による自治体等への専門知識の提供、また、医歯学総合病院においては重・中等症患者の受け入れなど、新型コロナウイルス感染拡大防止へのさまざまな対策を実施しております。このたび、本学における新型コロナウイルス感染拡大防止への対応について、新潟県から感謝状が贈呈されることとなり、2022年12月5日に新潟県庁において花角英世知事から牛木辰男学長へ感謝状が手渡されました。本学では、今後も状況に応じ必要な対策を講じることで、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めてまいります。

